

会 議 録

会議の名称	子育て支援計画策定委員会（第5回）
開催日時	平成14年11月29日（金） 午後3時10分から午後4時30分まで
開催場所	田無庁舎5階503会議室
出席者	（委員）森田委員長、安藤委員、田口委員、武田委員、出川委員、本間委員 （欠席 有澤副委員長、川又委員、片山委員、古荘委員） （事務局）富田課長、田島 （コソカト）高屋、山領 （傍聴者）1名
議 題	（1）会議録の承認について （2）「第3回 子どもの育ち・子育て支援を一緒に考える会」の結果を踏まえた意見交換について （3）作業部会等の経過報告と今後の予定について
会議資料	1 会議次第 2 会議録（第4回西東京市子育て支援計画策定委員会） 3 子どもの育ち・子育て支援を一緒に考える会のまとめ（第2回） 4 資料 作業部会等の経過報告と今後の予定について 5 資料 子どもの育ち・子育て支援を一緒に考える会 第1・2回の議論の要点 6 資料 子どもによる子どもインタビュー（調査シート） 7 資料 子育て支援団体等ヒアリング調査結果の概要 8 資料 庁内ヒアリング調査（第1ステージ）結果の概要 9 資料 庁内各部課の子育ち及び子育て支援に係る事業・施策の概要 10 「青少年の居場所」づくりについて(提言) 西東京市社会教育委員の会議 11 西東京市の青少年健全育成のあり方について(中間答申) 西東京市青少年問題協議会
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録

発言者名	発言内容
森田委員長 事務局	開会宣言 資料の確認 本日の資料は「会議次第」、「会議録」、「子どもの育ち・子育て支援を一緒に考える会のまとめ」、そして資料 から資料 である。 議題1 会議録の承認について 訂正の依頼があり、それを直したものを今回提示した。
	議題2 第3回 子どもの育ち・子育て支援を一緒に考える会」の結果を踏まえた意見交換について （就学前から小学校中学年までの子どもの子育てと子育てについて）
安藤委員	親の指導に関する意見が多い。先日、新聞で0歳児に絵本を読み聞かせることの重要性について書かれている記事を読んだ。親が子どもにどのようなことをしてあげるといいのかわざらせることが大切だと感じた。
森田委員長	読み聞かせを行っているサークルや施設は市内に多くある。そのような場を提供しても来ない人への対応も課題である。意見交換会でも出前で相談業務をやってほしい、という意見があった。場を提供して、そこへ出てくる人のための施策と出てこない人の双方への配慮が必要である。特に、提供された場に出てこない人のための施策について、よく検討すべきである。
本間委員	乳幼児の健診のとき、色々な相談窓口やサービスをPRを兼ねて紹介しているが、出かけて行って相談にのることも大切だと思う。

武田委員	親では分からないことが多いと感じている。親がだめなら学校が、学校がだめなら地域がというように、何重にも問題の受け皿をつくっていく必要がある。例えば先ほど読み聞かせの話があった。本来は親が子どもに絵本を読んであげることが一番よいのだが、図書館等が受け皿になっている、ということである。
田口委員	出前で何かをしても来ない親もいる。例えば、保谷高校の先生を保谷中学校に呼んで授業をしてもらったが、それでも来ない親はいる。制度として何重にも受け皿をつくる施策が必要だと感じる。
森田委員長	何重にも受け皿を用意する施策というのは、色々な課が関わる施策である。親と子どもの関係のつくり方、特に乳幼児期からの子どもとの係り方について、親が学習していく場面をどのように設定するか、という問題になると思う。どのような場面で、既にある施策を駆使しながら、何重もの子どもや子育て支援の構造を作りだす作業をここでする必要があると思う。 市報を読まないという意見があったが、情報の伝え方について何か意見はあるか。
安藤委員	読む人がいてもいなくても、市報できちんと情報を出していくことは大切である。
本間委員	子育てに関する様々な情報が掲載されているので、市報は子育て中の親にとって重要な情報源だと思う。
武田委員	中学生になると、学校で配られた手紙をなかなか親に渡さない。重要な連絡事項はPTAの連絡網で回している状態である。
森田委員長	子どもに情報を届けるためには、どのような方法がいいだろうか。
武田委員	子どもを動かすほうが効果的ではないだろうか。中学校では、教師が発する情報よりも、生徒会が発する情報のほうが子ども達によく届くようだ。
森田委員長	先日、子どもによる子ども調査を行ったが、調査を行った子ども達は面白さが分かったようであった。体験しないと面白さは分からないものである。子ども達が体験するきっかけをどのようにつくっていったらよいだろうか。
武田委員	親が人と付き合う範囲が非常に狭くなっているという問題があり、人付き合いによる情報収集には限界がある。インターネットによる情報収集は必須である。
森田委員長	インターネットに情報を掲載することになると、管理が必要になる。昨年度のアンケート調査では、5%がインターネットを使っていた。
安藤委員	西東京市に魅力的な特徴があればアクセス回数も増えるのではないだろうか。
森田委員長	中学生の場合、大人から子どもへの情報伝達にはどのような方法が効果的か。
田口委員	言葉によるコミュニケーション(会話)ではないだろうか。
森田委員長	策定委員会で小学校や中学校に出向いて行って子どもと話してみることもやってみてはどうかと思う。
武田委員	身近に母親のモデルがあると、具体的なイメージとして情報が伝わると思う。例えば、自分は塾講師をしているので、学校行事がある場合に例えば、「子どもの運動会があるから今日の授業は10分短くして、次回10分延長するよ」と生徒達に伝える。こうすることによって生徒達は、母親が働きながらどのように子どもを育てているのか具体的なイメージがわく。問題は子どもを育てている母親の様子を見る機会が少ないことである。

(小学校高学年以降の子どもの子育てと子育てについて)	
安藤委員	定年になった人が子どもの学習を手助けするといった、学習塾のようなことをしてほしい、という要望があった。そのようなきめ細かい対応が子育て支援には必要だと感じた。
森田委員長	高齢者の方々が、子どもの育ちや子育ての支援にどのように参加できるか検討する必要がある。中学生、高校生、大学生が援助する側に回ることにについて何か意見はあるか。
武田委員	色々な批判があるが、学校の中で制度の1つとして位置付けることは興味深い。例えば、1つの学校が1つの保育園の夏季保育をある程度請け負うということを経験化すると、下の学年にノウハウが伝達されていく。
森田委員長	昨年度行ったアンケート調査では、低収入でも自分の好みの仕事に就きたいと答えた子どもが多かった。
武田委員	どのような地域活動ができるのかモデルを見せる必要がある。
安藤委員	総合学習はそういう機会を与える重要な場である。
森田委員長	児童館の有効利用の提案があったが、何か意見はあるか。
本間委員	児童館は小さな子どもが行く所、というイメージが定着しているし、中学生や高校生にとっては狭すぎるかもしれない。また、小学生と中・高生が同じ場所で過ごすのは難しいことかもしれない。
武田委員	児童館は飲食禁止である。これは中学生、高校生にとって致命的である。
森田委員長	児童館の職員が親達の相談相手になっていないという問題もある。職員の数が少ないことや、相談できるコーナーがないことが原因として考えられる。
武田委員	子どもの発育について、児童館の職員の方から呼ばれて話し合いをすることはある。もう少し自然に話し合いや相談ができるとよい。
森田委員長	全ての子どもと親を対象にした地域のための児童館と、利用対象者を絞った児童館というように、児童館をある程度機能や対象で分類する必要があるかもしれない。
武田委員	現在利用者が少ない児童館を中高生や大学生のための施設として試験的に開いてみるのもよいのではないか。
森田委員長	中高生や大学生に児童館を運営してもらうのはどうだろうか。
安藤委員	大学生はアルバイト等で忙しそうだが、やってくれるだろうか。
森田委員長	大学生は面白いことには興味を示す。有償で児童館の運営をやってもらったらどうだろうか。ボランティアを重要視している中学や高校に説明して、中高生にボランティアとして児童館の運営を手伝ってもらうことも考えられる。
森田委員長	<p>議題3 作業部会等の報告及び今後の予定について</p> <p>子ども部会：11月9日、10日の西東京市民まつりで子どもによる調査を実施済 子育て支援団体等へのヒアリング：ヒアリング終了、アンケート調査票回収済 庁内ヒアリング：第1ステージヒアリングで使用したデータを資料として本委員会で配布済</p> <p>今後の予定 「中間まとめ(データブック)」の原案を次回策定委員会で提示</p> <p>第6回西東京市子育て支援計画策定委員会の日程 2月上旬 場所：未定</p> <p>閉会宣言</p>

